

# 登壇者プロフィール(登壇順)



## 文部科学省大臣官房 文部科学広報官 鍋島豊氏

1996年文部省入省。2002年FIFAワールドカップ日韓大会、道徳教育などを担当。  
2005年4月から3年間、岡山県教育委員会生涯学習課長として、全国生涯学習フェスティバル(まなびピア岡山2007)などを担当。その後、大臣官房政策課、生涯学習政策局社会教育課などで、省内の東日本大震災の復興支援窓口、学校支援地域本部などを担当。



## 特定非営利活動法人TEDIC 代表理事 門馬優氏

1989年3月1日生まれ、宮城県石巻市出身。早稲田大学大学院教職研究科修士課程修了。

故郷の被災をキッカケに、大学院在学中の2011年5月にTEDICを設立。

生活困窮、虐待、ネグレクト、不登校、ひきこもりなど困難におかれる子ども・若者支援にあたる。(2014年9月にNPO法人化)。石巻市地域福祉委員(第3期)、石巻市教育委員会学校支援地域コーディネーター、日本ボランティアコーディネーター協会検定・認定システム化検討委員会委員。



## 公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン 代表理事 今井悠介氏

1986年生まれ、兵庫県神戸市出身。小学2年生の時に阪神・淡路大震災を経験。関西学院大学在学中、チャンス・フォー・チルドレンの設立母体であるNPO法人ブレンヒューマンティで不登校の生徒の支援に関わる。卒業後、株式会社公文教育研究会(KUMON)に入社し、学習教室のコンサルタントとして勤務。その後、東日本大震災を契機に、チャンス・フォー・チルドレンを設立し、代表理事に就任。



## NPO法人底上げ 野田篤秀氏

2014年関東学院大学教育学部を卒業。

2011年大学在学中に、教員を志す半ば震災が発生。教育の主眼とされている「生きる力」「問題解決能力」「子どもの主体性の育成」のヒントが気仙沼にあると感じ、大学を卒業後、気仙沼で暮らし始める。日々、新しい教育のかたちを模索中。  
現在は主に宮城県南三陸町の子どもの支援活動に取り組んでいる。



## NPO法人アスイク 代表理事 大橋雄介氏

1980年生まれ。福島市出身、筑波大学卒。

株式会社リクルートマネジメントソリューションズのコンサルタントとして、大手企業に対する組織開発のコンサルティングに従事した後、2010年3月に独立。独立後、市民活動の先駆者である加藤哲夫氏と出会い、NPO法人せんだい・みやぎNPOセンターにてソーシャルビジネスの起業支援やネットワーク形成プロジェクトを担う。

震災発生直後にアスイクを設立。著書に「3・11被災地子ども白書」(明石書店)等。  
仙台市市民公益活動促進委員(第8期)。



### **NPO法人カタリバ 広報・ファンドレイジング部 ジュニアマネージャー 川井綾氏**

1984年生まれ。宮城県仙台市出身。国際基督教大学卒業。神奈川県にてシステムエンジニアとして3年半勤務。

震災を機に、2011年10月より認定NPO法人カタリバに参画。岩手県大槌町にて、放課後学校コラボ・スクールの立ち上げに従事。4年間、臨学舎の広報・事務局スタッフとして勤務。現在は、広報・ファンドレイジング部に所属。



### **NPO法人ビーンズふくしま 被災子ども支援部門理事 中鉢博之氏**

フリースクールビーンズふくしま(現NPO法人ビーンズふくしま)の設立に関わり、不登校・ひきこもり等困難を抱える子ども・若者の支援と場づくりに取り組む。

震災以降は被災子ども支援プロジェクト「うつくしまふくしま子ども未来応援プロジェクト」を立ち上げ、仮設住宅の子ども支援(学習・遊び・文化活動・子どもを中心としたコミュニティづくり)を行い、各団体との連携・コーディネートを行う。

また、厚生労働省の要請で設置された、東日本大震災中央子ども支援センターの福島担当として、中長期にわたって必要な親子のケアの体制づくりと諸事業に取り組んでいる。



### **NPO法人キッズドア 理事長 渡辺由美子氏**

千葉大学工学部出身。大手百貨店、出版社を経て、フリーランスのマーケティングプランナーとして活躍。2000年から2001年にかけて、家族でイギリスに移住し、「社会全体で子どもを育てる」ことを体験する。

準備期間を経て、2007年任意団体キッズドアを立ち上げる。2009年内閣府の認証を受け、特定非営利活動法人キッズドアを設立。

日本の全ての子どもが夢と希望を持てる社会を目指し、活動を広げている。